

実践事例「オンラインも活用したビブリオバトル大会」

(東京都立杉並総合高等学校)

本校では、読書活動推進の一環として、また、身近にいる人とのコミュニケーションのツールとして、ビブリオバトル大会を全学年で開催しました。

コロナ禍で様々な行事が無くなり、友人と貴重な体験を通して学ぶ機会が減ったようにも感じられる昨今、実際に体験はできなくても、オンラインによる疑似体験や、読書を通じて様々に見聞を広めた生徒の方も多かったのではないのでしょうか。そこで、在宅期間中に知ったり考えたりしたことを、自分のお気に入りの本を通して友達に伝える、また、友達が発表してくれたことを通して、新しい出会いとして本を手にする。そんな様々な出会いのツールになってくれることを願い、取り組みました。

クラス代表決定戦@教室



学校代表決定戦@校長室



年代表決定戦@オンライン (左) とその裏側 (右)



夏休み期間中に、発表したいお気に入りの本を決め、9月から国語科との協力のもと、現代文の授業も使いながら開催しました。まずは、身近な人とのビブリオバトル。6、7人のグループ内で、1番読みたくなったチャンプ本を選出します。それから、各クラスで1冊のチャンプ本を選出。各クラスのチャンプ本が決まると、次は、オンラインを駆使して学年全体でチャンプ本を決めます。図書委員は、司会進行やタイムキーパーを務め、自分たちが代表を決める意識で積極的に運営に参加してくれました。学年チャンプ本が決定した後は、校長先生はじめ、国語科や各学年の先生方の前で、全校のチャンプ本を選出しました。

もっと読みたい、知りたいという気持ちを大切に、これからもたくさんの本と出会ってほしいと思います。

<p>取組の狙い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本を通して人を知ること、人を通して本を知ること ・自分の事を自分の言葉で表現すること
<p>工夫や留意点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな本を紹介することで心の深い部分や個人情報公開しすぎないように、各自がコントロールできるようにすること ・友人の発表に、自分が発表するときと同じように真剣に耳と心を傾けるようにすること
<p>取組の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ好みがあったり、同じ悲しみがわかったり、出会いのきっかけになった ・読んでみたい、手に取ってみたい本ができ、実際に図書館への来館者が増えた

課題等	<ul style="list-style-type: none">・ビブリオバトルで発表される本と、学校が新着図書として案内している本との乖離があることがわかり、生徒たちがどのような本を読んでいるかアンケートを取ることを検討している・授業や HR の時間の効率的（計画的な）使い方を工夫し、学校全体での行事として組み立てていけたらいいと考えている・さらなる展開として、高校生ボランティアの立場で小学校でビブリオバトルの運営や発表を行うことも考えられる
------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------